

国語科学習指導案

令和3年2月15日(月)3校時
第1学年1組 児童数30名
授業者 野崎 由美

単元名 みんなでちがいをくらべてみよう
～ くらべてよもう 「どうぶつの赤ちゃん」 ～

本単元で育成する資質・能力 主体性 コミュニケーション能力 メタ認知

1 単元について

【単元観】

本単元は、小学校学習指導要領国語科第1学年及び第2学年の内容〔知識及び技能〕(2)「ア 共通, 相違, 事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。」、〔思考力, 判断力, 表現力等〕C読むこと(1)「ウ 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」を受けて設定したものである。

本単元は、教材文「どうぶつの赤ちゃん」で、2つの対象を基に、比べて読む力を育成する。教材文では、ライオンとしましまを比較するようになっており、生まれた時の大きさ、生まれたばかりの目や耳の様子、自分自身で食べ物を取って食べ始める時期など、それぞれの読みの観点が同じ順序で書かれている。そのため、双方の違いに着目して読みやすく、書かれていることを比べながら読む力を育成することができる。と考える。

また、本単元では、並行読書で他の動物の赤ちゃんについての本を読み、既習の動物の赤ちゃんの時と比べる活動を取り入れる。好きな動物の赤ちゃんの様子を調べ、既習の動物の赤ちゃんとのどのような違いがあるかを比べることで、学習で身に付けた読みの力を確かめることができる。さらに、自分が選んだ動物の赤ちゃんについて、「どうぶつの赤ちゃん ひみつブック」と題して本を作り、2年生にプレゼントする。いつもお世話になっている2年生に、比べて読むことで分かったどうぶつの赤ちゃんの違いを教えるという言語活動を設定することで、主体的に学習に取り組んでいくのではないかと考えた。この単元を通して、比べながら読むことの良さに触れ、他教科や日常生活でも物事を比べて読んだり考えたりする足掛かりとしたい。

【児童観】

本学級の児童は、これまでに教材文「くちばし」、「うみのかくれんぼ」、「じどう車くらべ」の3つの説明的文章を学習している。これらの学習の中で、説明的文章は、「問い」と「答え」という構成で成り立っていることを理解している。また、「じどう車くらべ」では、各自動車の「しごと」(何の仕事をする車であるか)と、「つくり」(その仕事をするためにどのような装備になっているか)を、説明の順序に気を付けながら読む学習を行っている。この単元において、教材文以外のテキスト文から、選び出さなければならない語や文が含まれる大まかな箇所を見つけることができた児童は71%であった。そのうち、重要な語や文を選び出すことができた児童は77%で、全体の55%であった。文全体から重要な語や文の見当をつけることはできても、その中から重要な文や語を的確に選び出すことができる児童は少ない。

【指導観】

本単元では、単元を貫く言語活動を、読むことの言語活動例「ア 事物の仕組みを説明した文章などを読み、分かったことや考えたことを述べる活動」を具体化し、「動物の赤ちゃんの頃の様子を比べて読み、『どうぶつの赤ちゃん ひみつブック』を作ろう。」と設定する。この言語活動を通して、説明的文章を読む際には、読む観点を明らかにし、観点ごとに比べながら読むと内容を理解しやすいことに気付かせ、さまざまなものを比較しながら読んだり考えたりできる力を育成したい。そのために、以下の3点に留意して指導を行う。

1点目は、読む観点を明らかにし、比べて読ませる手立てである。教材文では、「生まれた時の大きさ」「生まれた時の目や耳の様子」「親との比較」「移動の方法」「お乳を飲む期間」「自分で食べ物を取って食べ始める時期」の6つの観点が同じ順序で書かれているため、どこに何が書かれているかを見つけやすくなっている。まずはそれぞれの観点ごとに色分けをさせ、その中身がどのような観点を示しているか明らかにさせる。そして、観点ごとにメモに整理し、比べる活動を行う。比べる際には、書いてあることを何気なく比べるのではなく、「ライオンでは〇〇だが、しましまではライオンと違って△△になっている。」のように、違いを意識した比べ方をさせる。そうすることで、重要な語や文に気付かせ、必要な語や文を選び出す力を育成したい。

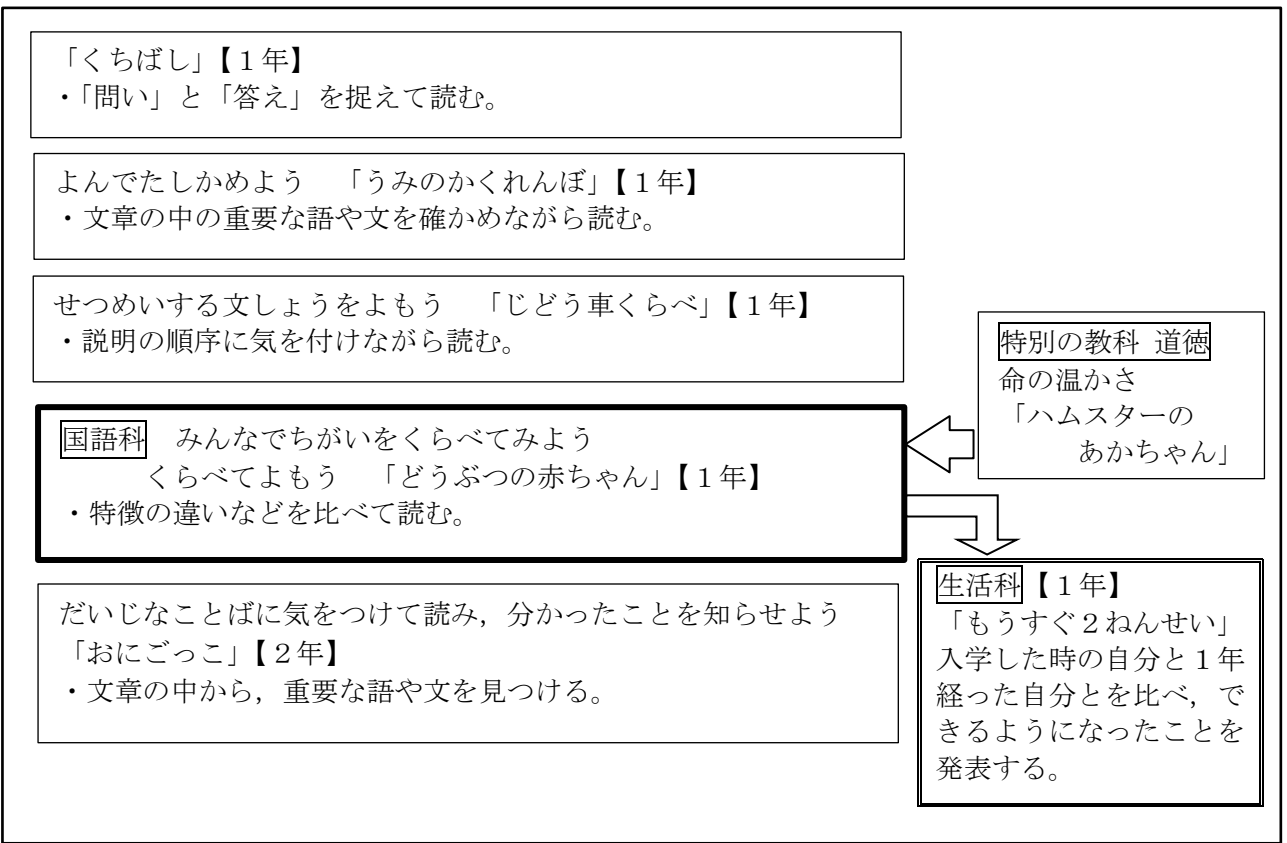
2点目は、主体的に学びに向かわせる手立てである。そのために、本単元のゴールを、自分が選んだ動物の赤ちゃんの頃と教材文で学習した動物の赤ちゃんの頃を比べ、『どうぶつの赤ちゃん ひみつブック』を作って2年生にプレゼントすると設定した。プレゼントした2年生にブックを読んでもらい、動物の赤ちゃんの違いがよく分かるか感想をもらうことで、相手により分かりやすく比べたことを伝えようと、意欲をもって学習に向かうことができると考えた。相手に伝わるブックにするために、まずは教材文で比べる観点を知り、比べ方を学ぶ。そして、自分が選んだ動物の赤ちゃんの頃と既習の動物の赤ちゃんの頃とを比べ、違いを読み取り、表現する。このような学習を設定することで、最後まで主体的に学びを深めるようにしたい。

3点目は、並行読書を取り入れ、さまざまな動物の赤ちゃんの様子について、観点を意識しながら読む機会を多くもたせる。学校司書と連携し、動物の赤ちゃんに関係する本を教室に置き、その読んだ本の中から比較させる。比較することを前提として読ませるため、必然的に観点を意識しながら読むことにつながる。たくさんの本を読み、重要な語や文を捉える力を育成していきたい。

2 単元の評価規準

【資質・能力】主体性		
<ul style="list-style-type: none"> 文章の中から比較するために必要な語や文を選び出し、動物の赤ちゃんの頃の違いを捉え、表現している。 		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知識及び技能（2）ア】	<ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉えている。 【思考力、判断力、表現力等 C（1）ア】 <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。 【思考力、判断力、表現力等 C（1）ウ】	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもって進んで文章の内容を比べながら読み、分かったことや考えたことをまとめようとしている。

3 単元関係図



4 指導と評価の計画（全 11 時間）

次	学習内容（時数）	評 価			
		知・技	思・判・表	主体的態度	評価規準（評価方法）
一	○単元のゴールを知り，単元計画を立てる。（1）			○	・単元のゴールを理解し，動物の赤ちゃんの頃と自分自身の赤ちゃんの頃の違いを想像しながら，単元の見通しをもって学習に取り組もうとしている。 【態】（行動観察・発言・ノート）
二	○教材文「どうぶつの赤ちゃん」を読み，ライオンとしまの赤ちゃんのどんな様子が書かれているか確認する。（1）	○			・比べる観点を明確にしながら，共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 【知】（ワークシート・発言）
	○観点ごとにライオンとしまの赤ちゃんの頃を比べながら読む。（4） ・「生まれた時の大きさ」 ・「生まれた時の目や耳の様子」 ・「親との比較」 ・「移動の方法」 ・「お乳を飲む期間」 ・「自分で食べ物を取って食べ始める時期」			○	・書かれている観点の順序を考えながら，内容の大体を捉えている。 【思C（1）ア】（ワークシート・発言） ・それぞれの動物の赤ちゃんの様子が分かる重要な語や文を，観点到てはまるように選び出しながら読んでいる。 【思C（1）ウ】（行動観察・ノート・発言）
	○「もっとよもう」（教科書 P100）のカンガルーの赤ちゃんの様子について，既習の動物の赤ちゃんと比較しながら読み，比較読みができるか確認する。（2） 【本時 2 / 2】			○	・観点到に沿って，進んで文章の内容を比べながら読もうとしている。 【態】（行動観察・ワークシート・発言）
三	○並行読書をしてきた本の中から既習の動物と比べる動物を決め，再度読みを深める。（2）			○	・選んだ動物の赤ちゃんの様子が分かる重要な語や文を，観点到てはまるように選び出しながら読んでいる。
	○選んだ動物の赤ちゃんの頃と既習の動物の赤ちゃんの頃を比べ，分かったことや考えたことを『どうぶつの赤ちゃん ひみつブック』にまとめる。 ○単元の学習を振り返る（2）			○	【思C（1）ウ】（行動観察・ノート） ・観点到に沿って，進んで文章の内容を比べ，分かったことや考えたことをまとめようとしている。 【態】（行動観察・ワークシート・発言）

5 本時の展開

本時の目標 カンガルーの赤ちゃんの頃の様子を，既習のしまの赤ちゃんの頃の様子と観点ごとに比べながら読むことができる。

学習活動	指導上の留意事項	評価規準（評価方法）
1 前時の学習を振り返り，本時のめあてを確認する。	・前時は，カンガルーの赤ちゃんの頃の様子を整理したが，本時では，しまの赤ちゃんの頃と比べて違いを見つけていくことを伝える。	
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> めあて カンガルーの赤ちゃんとしまの赤ちゃんをくらべてよみ，ちがうところを見つけよう。 </div>		

<p>2 「もっとよもう」を音読し、カンガルーの赤ちゃんの様子を振り返る。</p> <p>3 カンガルーとしまうまの赤ちゃんの様子を比べて読み、相違部分を見つける。</p> <p>4 比べたことを全体で確認する。 ①ペアで ②全体で</p> <p>5 本時の学習をまとめ、振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・カンガルーの赤ちゃんの様子を、6つの観点（くらべる目）に沿って確認する。 ・「生まれたときのしまうまの大きさは〇〇だが、カンガルーは、しまうまとちがって△△で、とても小さい。」のような文型を提示し、比較したことを文章化させる。 ・比較した文章の最後に、比べて思ったことを記入させる。 〈児童の状況に応じた指導〉 ・「生まれた時の大きさ」から順番に観点（くらべる目）ごとに比較させる。 ・どのような違いがあるか記入が難しい児童には、本文から読み取った様子や数値のみをワークシートに記入させたり、違いがあれば×、同じであれば○のように記号を記入させたりする。 ・全体の場合でも、「生まれたときのしまうまの大きさは〇〇だが、カンガルーは、しまうまとちがって△△で、とても小さい。」というように、どのように違うか意識させながら発表させる。 <div data-bbox="507 1057 1114 1624" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈予想される児童の発言〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生まれたときのしまうまの大きさはやぎぐらいだけど、カンガルーは、しまうまとちがって1円玉ぐらいで、とても小さいんだね。 ・生まれたときのしまうまの目はあいているけど、カンガルーは、しまうまとちがってどこにあるのかよくわからないので、あいているかもよくわからないね。 ・しまうまの赤ちゃんは、おちちだけをのんでいるのは7日ぐらいだけど、カンガルーの赤ちゃんは、しまうまとちがって6か月ものんでいて、とてもながいあいだのんでいる。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・カンガルーとしまうまを比べて読むとどうだったかという視点でまとめや振り返りを行う。 ・文章が観点（くらべる目）ごとに同じ順序で書かれていると比較しやすいことをおさえる。 	<p>【思・判・表】</p> <p>カンガルーの赤ちゃんの様子を、観点に当てはまるように重要な語や文を選び出しながら読んでいる。 （行動観察・ノート・発言）</p> <p>A：カンガルーと他の動物の赤ちゃんの相違点を、具体的な様子や数値を基にどのように違うか考えながら読んでいる。</p> <p>B：カンガルーと他の動物の赤ちゃんの相違点を、具体的な様子や数値を見つけて読んでいる。</p>
<p>ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くらべるときに、「くらべる目」どうしてくらべるとわかりやすかった。 ・それぞれの「くらべる目」が、おなじじゅんぱんになっていたのでくらべやすかった。 ・くらべてみると、ちがうところがたくさんあることがわかった。 		

6 板書計画

どうぶつの赤ちゃん

めあて カンガルーの赤ちゃんとしまうまの赤ちゃんをくらべてよみ、ちがうところを見つけよう。

くらべるとき・・・「くらべる目」をつかう

じぶんでえさをたべはじめるじき	おちだけをのむきかん	じぶんでうごけるか	おかあさんとくらべて	生まれたときの目や耳	生まれたとき大きさ	
						しまうま
						カンガルー

ふりかえり

・くらぶるときに、「くらべる目」「どうしてくらぶるとわかりやすい。」
 ・「くらべる目」が、おなじじゆんばんになっていてくらぶやすい。